

高級娼婦の 売国マゾ化 調教 最終話

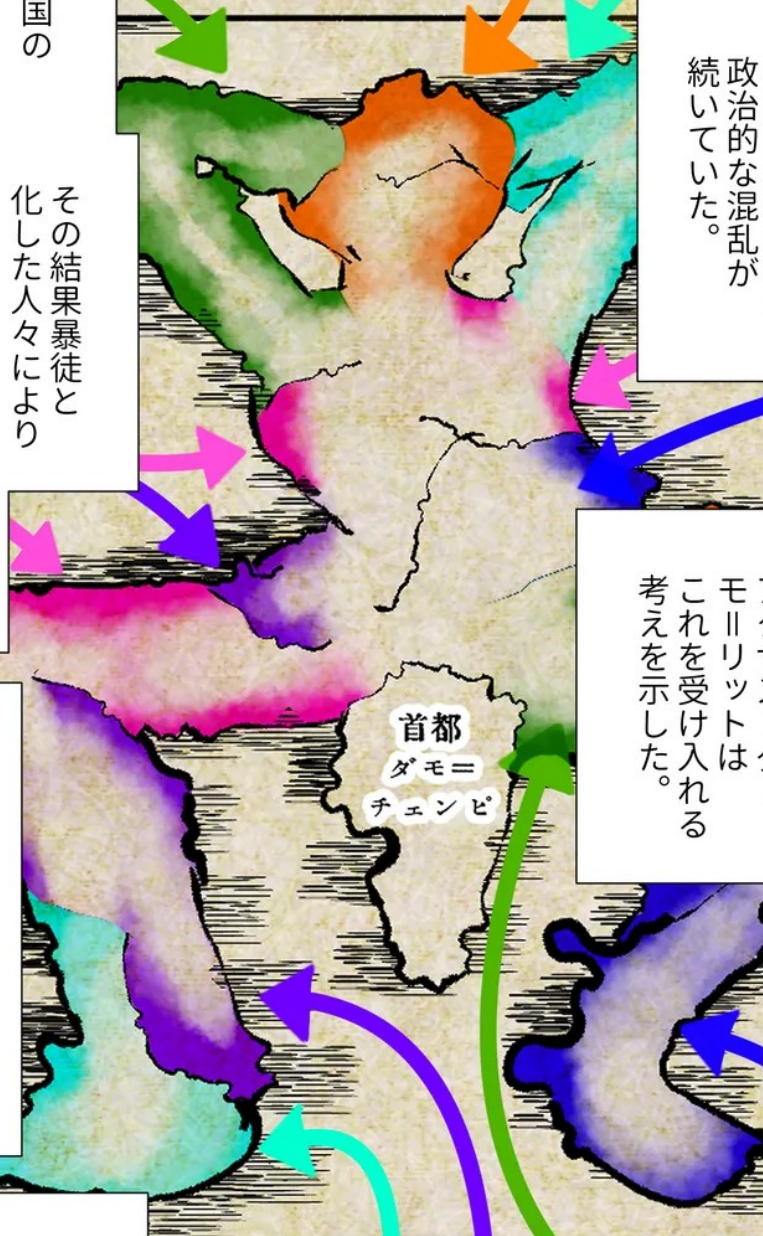


～冒洩射精編～

前回までのあらすじ
見分を広めるため、大國デソニ帝国で外遊していたダモゾ王国第二王子アクサス＝ダモ＝リットは、高級娼婦アイリンティティの豊富な肉体と淫らな性交にのめり込んでしまい、持っていた財産、想いを寄せていた従者のユイキャナを手放したあげく、自らも借金の担保としてアイリンティティの元に捕らえられ貞操帯で射精を管理されながら弄ばれることに。一方で、彼の父と兄であるダモゾ王国の国王と王太子はアクサス救出のため画策するが失敗し洗脳されたユイキャナと、帝国のスパイであるサイレンチーンによって暗殺されてしまう。すべては帝国皇女のエカテリア＝ダモゾ＝ドライツェルンによるシミのように目障りな隣国の抹消計画だった。

Kingdom Damozo

ダモゾ王国



国王と王太子の崩御を受けデソニ帝国での外遊から帰国したアクサス第二王子。

アクサスは新王に即位したがダモゾ王国では政治的な混乱が続いていた。

これを受け帝国は邦人保護を名目に帝国軍をダモゾへ派兵。

ダモゾ新王アクサス＝ダモ＝リットはこれを受け入れる考えを示した。

その振舞いは明らかに帝国の邦人保護を超えダモゾを支配下に置こうという意図が丸見えであったが

世間では帝国の謀略により国王と王太子が暗殺されたとの噂も広がり治安が悪化。

その結果暴徒と化した人々により

ダモニチェンピに滞在していたデソニ人が殺害されるという事件が起こる。

瞬く間に帝国軍はダモゾ全土を掌握。有力な帝国貴族によって王国は分割統治されることとなった。

混乱により疲弊しなおかつその玉座に重大な弱みを持つていた王国は

もはや帝国の魔の手から逃れることはできなかつた



本作はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係がありません。登場人物は全て成人しています。また、作中で行われている行為を現実で行うと、罰せられたり健康に被害を受けたりするなど不利益を被る可能性があります。18歳未満の方による購入・閲覧・所持、及び18歳未満の方に本作を販売・貸与・譲渡するまたはその他の方法で閲覧させることを禁じます。本作品を閲覧した結果、何らかの不利益を生じたとしても作者は一切の責任を負いかねます。本作品の全てまたは一部、本作品を加工や翻訳したものを無断で販売・複製・複写・転載・アップロードすることを禁じます。



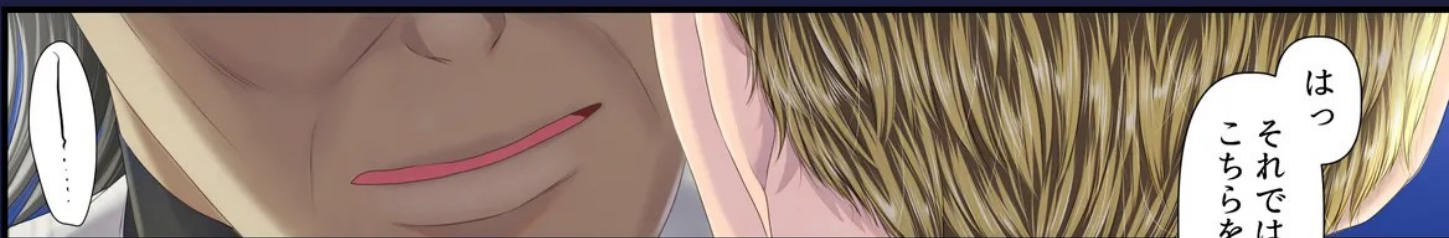
——以上になります

ご
ご苦労であった…

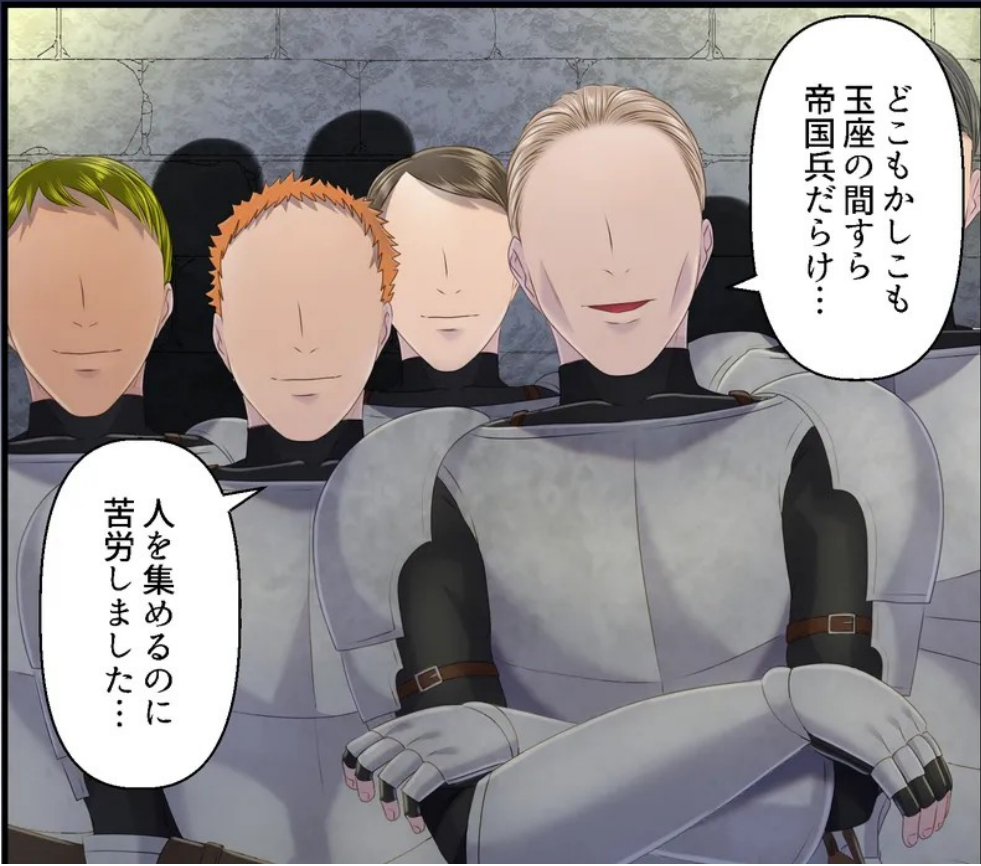


陛下——
それでは

王都の穀物貯蓄に
ついでご報告
申し上げます——



はっ
それでは
こちらを——



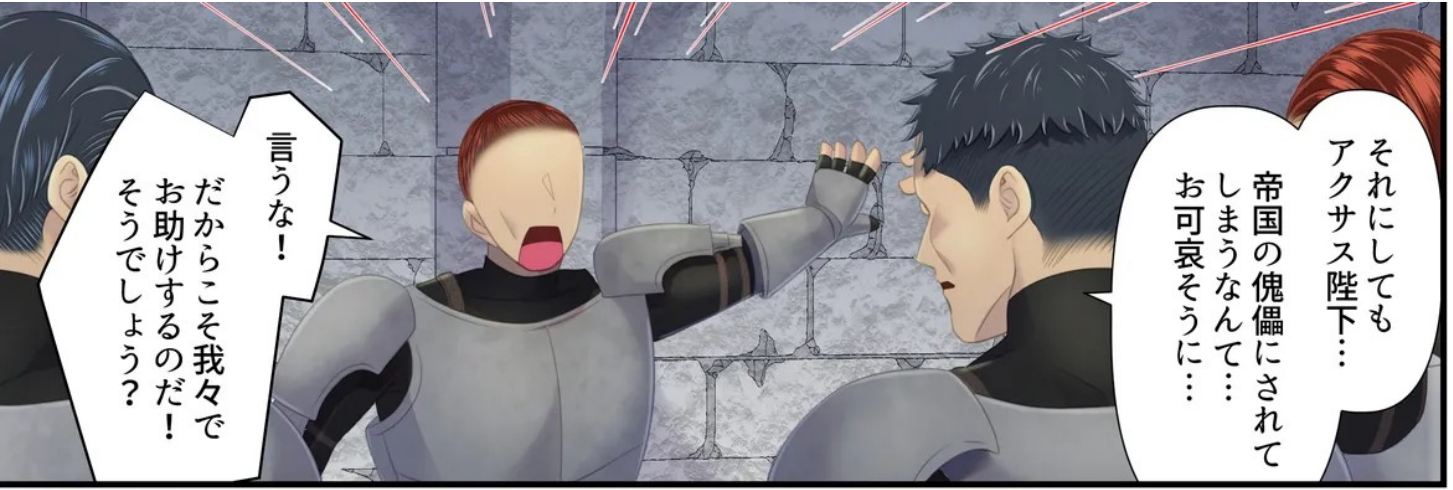
どこもかしこも
玉座の間すら
帝国兵だらけ…

人を集めるのに
苦労しました…



よくぞ
集まってくれたな

サッ



それにしても
アクサス陛下：
帝国の傀儡にされて
しまうなんて：
お可哀そうに：

言うな！
だからこそ我々で
お助けするのだ！
そうでしょう？



陛下にはもう
お伝えした！
決行は今夜だ
行くぞ!!!



だからこそ今の陛下の
ご様子がなんとも
おいたわしい…

この命に代えても
お助けしたい—



ああ—
陛下の幼少期から
ずっと見てきたのだ



おおおおおお!!!



さすがは陛下の
おじい様の代から
仕える大臣閣下だ！

みんな
聞いたな！

俺たちもこの命
ダモルゾ王国と
アクサス陛下に
捧げるぞ!!



陛下！
お迎えに
上がりましたぞ！

は

バザッ



今こそ帝国の
魔の手から祖国を
解放するときで
ございます！

どうぞ我らに
お命じください！

さすれば我らの血は
最後の一滴まで
祖国のために――



な…
これは…!?

ザッ



ああ…

わな…

すまない…
すまない…
すまない…

わな…



ああ…
ああ…

すまない

すまない
すまない
すまない

ぼろ
ぼろ



陛下？

びび…

びび…

びび…



陛下！
お願いでございます！

帝国に何を
吹き込まれたのか
わかりませんが

どうか正気に……！

お父上の願いを
お兄上の願いを
どうか

あああああ……

バツ
キキッ



あ……
あああああ……

ドサ……



あああ……
あああ……
あああ……



ガク
ガク

フズ
フズ
フズ
フズ



はい
——



あああああああああっ!!

ふふふ…
今日はこれくらいにして

残りは牢に繋いでおきましょう



あ…
ああ…
あああ…



よかったですわね
陛下
こんなに反逆者がおりますから
しばらく毎日
射精できますわよ

半年後——

お願いします!!
射精させて
射精させてええ——

はぁ、

はぁ、

うふふ

最近は裏切り者も
すっかりいなく
なっちゃしまっ
ましたものねえ

様子を見に来てみれば
相変わらずいぶんと
情けない王子だことね

忠臣を根こそぎ
売ってしまったん
ですってね?

ブルリ

帝国にとっては
いぶんありがたい
ことだけれど

ブルリ



王宮前の広場に市民が押し寄せています!

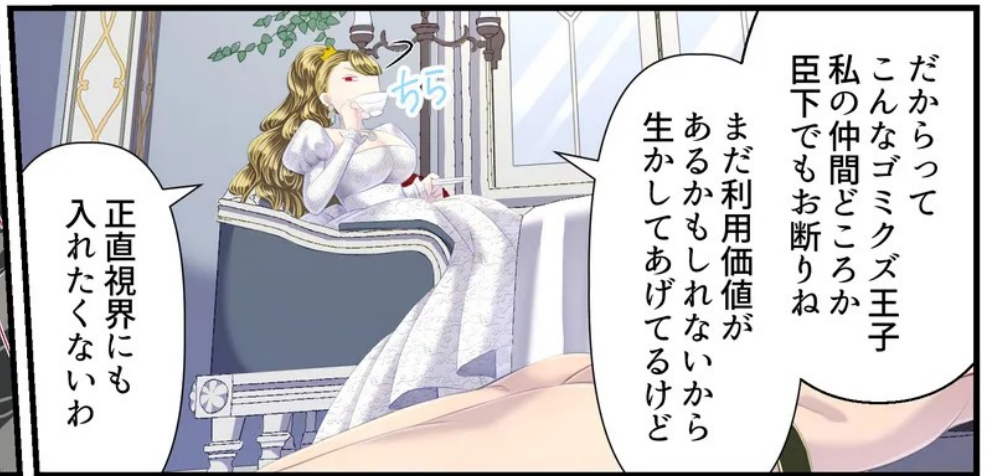
申し上げます!

毎日毎日
食べ物にも媚薬
体を洗うにも媚薬

さらにひたすら私の
秘儀を尽くして
焦らしてあげましたら

すつかり従順に
なるんでも捧げて
くれるようにな
りましたわ

すず



だからって
こんなゴミクズ王子
私の仲間どころか
臣下でもお断りね

まだ利用価値が
あるかもしれないから
生かしてあげてるけど

ちろ

正直視界にも
入れたくないわ



何を言っているの?
絶好の機会じゃない

あらあら...
どうしましうかしら



俺たちの
陛下を出せ!

帝国は
出ていけ!!



あの愚民たちに
己の王がどれほど
情けない存在か:

本当に臣従するべきは
誰なのかを
教えてあげましょう

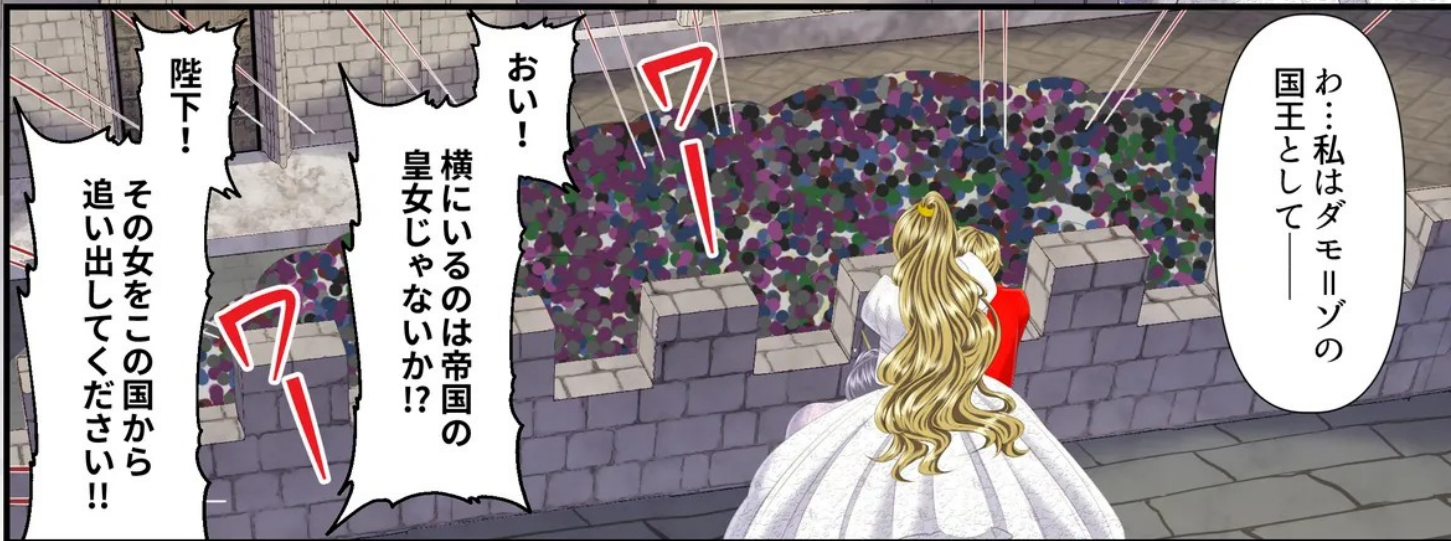


さあ さつき言った通りに
しなさい——



おお!!
陛下だ!!

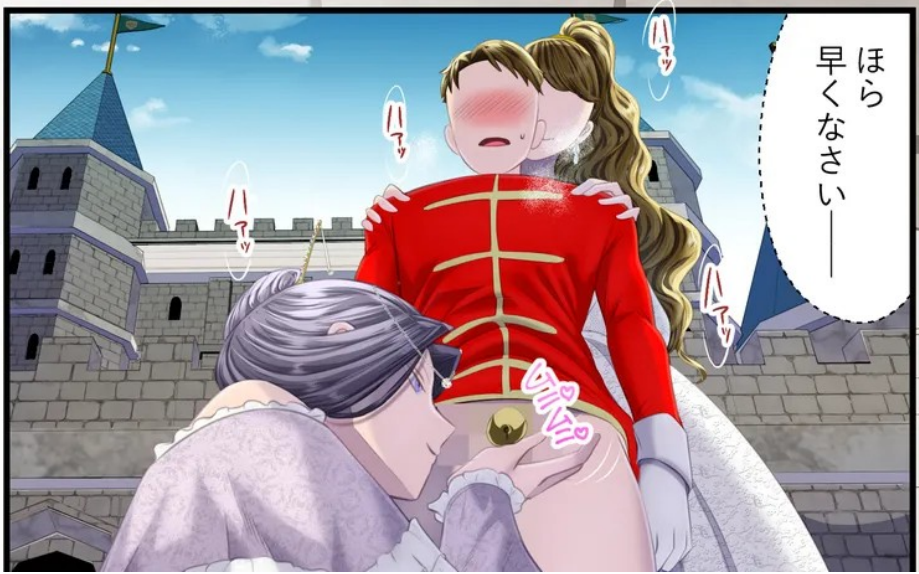
陛下
共に戦いましょう!!



わ…私はダモルゾの
国王として——

おい!
横にいるのは帝国の
皇女じゃないか!?

陛下!
その女をこの国から
追い出してください!!



ほら
早くなさい——



ッ…

ぎゅっ
脱従の証として
今から自身の
じゅ…純潔を…

正式に
デソー帝国の
忠誠をここに誓い
ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ

わ…
我が国は…

デソー帝国の
皇女である…

エカテリアⅡダⅡソⅡ
ドライツェルン殿下に
さ…捧げる—！

陛下
な…
何を…

え…



はあ
はあ
はあ

はあ

さあ...
どうして
欲しいのかしら

い：
イかせて
欲しいですっ

そう

じゃあ後ろで
イかせてあげる



そういう
ことだから
貴方たち

これから起こることを
その目にしつかり
焼き付けなさい

クス...



カチャ



ズッ

あなたみたいなの
クズに国王だなんて
ふさわしく
ないわよねえ？

僕はっ♡
国王失格
でしゅうっ!!

あなたに従うより
もっとふさわしい
主君が民には
いるはずよねえ？

だもろゾ王国は
デソー帝国に服属
するべきでしゅうっ!!

あゝあ
なんて惨めな
国王なこと

でもあなたは
その快感の
虜になって
しまったものね

はっはっはっはっ！

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡

あまら♡



忠臣を一人一人
殺されて



領土分割の
宴を開かれて



大切な従者を
売らされて

あんな王子のせいで
こんな目に遭つちまつてよお!



その度にとおつても
気持ちイイ射精を
体に植え込まれて

いつからか
売国射精が
だるい好きに
なつてしまつたん
でしよう?

そつ
それはあつ



あなたの
国民たちの前で

この国の最後の砦を
自らの手で壊しなさい



ほおら

最後にして
最高の売国射精



このお嬢様は...
どうも...
!!!



ほっ
僕はあっ—

本日より
ダモルソ王国は
デソー帝国の
属国となりっ—

ダモルソ王家は
デソー皇帝の
配下となることを...

うふふ...
その言葉
皇帝名代としてこの
エカテリアアデソ
ドライツェルンが
確かに受け取ったわ

それじゃあ—

この
売国奴

イけ

ああっ
!!!

売国射精
最高うううっっ
!!!

俺たちの
陛下が
あんなに
情けなく

ああ
そんな……

なんて
ことだ……

カラッ……

カラッ……

カラッ……



こんなになるまで
彼女を痛めつけて

また別のところに
売る：
だって—!?

そうですねえ…

それじゃ
こうしましょうか

そんな：
お願いだ

もう
やめてくれ…

これから陛下がこの
【永安の眠りの間】で
彼女を見守っている
間だけは：
私の手の者による
手出しは禁止：
とします

ただし：
ここから彼女を
逃がそうとしたり
陛下が彼女の元を
去ったりしたら

陛下はもう二度と
この女と会うことは
できなくなるでしょう

え—

ついでに
貞操帯も取って
さしあげましょう

ずいぶん
『ご奉仕』を
したがつている
みたいですからね

ぽんぽん



ダモルゾの
防腐処理にも
限界はある…

だからできるだけ
低い気温の地下に
この間を作り

王族といえど短い
時間しか参ることは
許されていないって

——っ!!



早い話がずっとこの
薄気味悪い部屋で
過ごしていなさい…
ということね

でも
いいのかしら…?

聞いたことが
あるのだけど



あなたたちの体から
出る体液は
空气中に飛び散り

その結果やがてここに
ある遺骸は徐々に
腐り出していく——



そんな場所で
一日中過ごし…
時にまぐわったり
したらどうなる
でしょうね?

あなたたちの
体温は部屋の
気温に影響を与え

ああ…もちろん
そんなことになっても
防衛職人を呼んだり
なんかしないわよ

まさか国王陛下が
臣下の女と
【永安の眠りの間】で
交わったせい

遺体が腐食した
なんて知られたら
国を惑わすもとに
なってしまうもの

だ…そうです
どうされますか
陛下？

申し出を受け
ないのであれば
私は

ユイキャナをそろそろ
連れて行かねば
なりません…

うふふっ
そうですか
そうですよねえ

やっと再会
できた想い人

しかも今となっては
陛下を認めてくれる
唯一の臣民と
言ってもいい！

ユイキャナと
添い遂げなければ
高級娼婦の元へ
行けばよい…とね

フッ…

私が最初に申し上げた
通りでしょう？陛下

どうしてそんな顔を
なさるのですか

フッ…

これからは陛下の
『たった二人の国民』を
守って

どうぞいつまでも
幸せに
お過ごしください！

想いが叶って
よかったですねえ
陛下！

腐り果ててゆく
あなたのご先祖様達の
前でねえ！

ズル…

ズルル…



